



たたら炉から炎が上がる中、木炭を投入



刀匠・早坂政義さんによる鉄冶の実演に興味津々



たたら炉を解体し“ケラ”を取り出します



取り出したケラをすぐに水で冷やします

## 脈々と受け継がれる内野の「たたら製鉄」

COVER ★ 9月19日 たたら製鉄体験学習

内野地区でのたたら製鉄体験学習は、旧内野小学校で平成11年に始まりました。平成22年に大原小学校と統合後も引き継がれ、今年で15回目となります。元内野小学校長で、同学習館の設立にも関わった加藤功子さんは、「砂鉄、炭、粘土が地元で豊富に採れ、刀匠もいる内野でたたら製鉄を学ばないわけにはいかないでしょう」と笑顔で当手を振り返りました。

砂鉄投入から約6時間が経過し、解体したたたら炉から約9kgの「ケラ」という鉄の塊を取り出すと歓声があがりました。純度が高く、現在の製法ではなかなか作れないとのこと。

参加した児童は、砂鉄や木炭を投入する係、投入する分量などを計測する係などに分かれ、効率よく作業を進めました。1500度近い高温となった「たたら炉」に、砂鉄川で採取した砂鉄30kgと木炭を交互に投入する作業では、投入役の児童は皆真剣な表情。炎が上がる中投入を終えるとホッとした表情に変わりました。

たたら製鉄を支援する「ホッパの会」(小野寺秀逸会長、会員32名)が中心となって作業を指導し、同校の6年生24人が取り組みました。また、市内外からの参加者もあり、児童と合わせ約80人が昔ながらの鉄づくりを学びました。

大原小学校(芦宏校長、児童147人)の児童が、内野地区にある「砂鉄川たたら製鉄学習館」で、伝統の「たたら製鉄」を体験しました。